



北海道立正学園校
旭川実業高等学校
広報部
TEL(0166)51-1246
旭川実業高校HP

吉田様よりマイクロバス寄贈



4月25日(火)、旭川トヨペット株式会社・ネットトヨタたいせつ株式会社代表取締役会長で本校理事の吉田裕様より、マイクロバスをご寄贈いただきました。

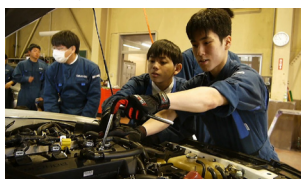
今年男子サッカー部がプレミアリーグに参戦し、生徒の活動が活発になり、移動手段の確保に苦慮していました。男子サッカー部をはじめとする他の部活動の遠征に役立てさせていただけます。

本校からは堀水享理事長より感謝状と、記念品として本校の卒業生で昨年度文科科学大臣賞を受賞した秋山拓也さんの絵画「仕合わせな木、春を告げ」を贈呈いたしました。

自動車科 3級自動車整備士 合格率81%

令和5年3月26日(日)に実施された「三級自動車整備士資格試験(国家資格)」の結果が発表され、受験した卒業生21名のうち81%にあたる17名が合格しました。なお、全国の平均合格率は60%前後(高校生・大学生・社会人含)です。

自動車科3年生は卒業式の後も春休みを返上して、実習工場での講習に参加し、3年間の自動車科での集大成である「3級自動車整備士」の資格取得に向けて懸命に学習してきました。努力の結果、高い合格率を達成しました。



新入生歓迎集会



4月12日(水)5:6時 間目に新入生歓迎会と部活動紹介が行われました。全校生徒が集まる行事は3年ぶりの開催であり、吹奏楽部の演奏やダンスサークルの歓迎ダンスで大いに盛り上がりました。

部活動紹介では、運動部、文化部

令和5年度 学園経営の方針

『学園は生徒のためにある』

令和5年度は教職員一人ひとりがこの言葉を改めて問い直すことから始める。教育課程がスタートし、ICT機器を用いた授業が日常となり、教職員の連携もデジタル化が進行している。生徒のデジタル対応が急速に進展している以上、我々もデジタル対応の技術を高めなければならぬ。このように、教育方法は時代に合わせて柔軟に

サークルの順番で各部の紹介が行われました。

旭実3年間の抱負

普通科 林琴桂さん(忠和中)「私たち難関選抜コースは、難関大学合格に向けて、クラス全員で切磋琢磨しています。7時間授業のあとの講習や放課後のサークル活動などの充実した学校生活を、お互いに高め合いながら頑張っていきたいです。」

自動車科 武田蘭人さん(緑が丘中)「僕たち自動車科1年はいつも元気で笑顔あふれるクラスです。実習など自動車についての専門的な勉強に励み、クラスのみんなとそれぞれの将来の夢を実現できるように協力して頑張っていきたいです。まずは危険物取扱者丙種の全員合格を目指し、

機械システム科 片桐弘夢さん(啓北中)「僕は旭川実業高校の機械システム科で専門的な知識をしっかりと学び、資格を取ることを頑張っていきたいです。一回しかない高校生活なので全力で楽しみ、やるべき時はしっかりとやって、充実した生活を送りたいです。」

商業科 伊藤心音さん(北門中)「私は将来のために様々な資格を取得していきたいと思っています。そして、勉強だけでなく日常生活も疎かになつてしまわないように何事にも精神一倒していききたいと思います。」

西イオンで俳句甲子園

4月6日(木)「旭川実業高等学校 俳句甲子園」がイオンモール



園にかけて約1時間ゴミ拾いを行いました。

旭川西店で行われました。生徒会執行部による本番さながらの進行で、昨年全国大会(俳句甲子園 於:松山市)に出場した図書局文芸部門の生徒たちと今年の俳句甲子園出場を目指す生徒たちの熱いディベートが繰り広げられました。また、この大会で使用した俳句掲示用の台は機械システム科1年生が製作しました。

ゴミ拾いボランティア

5月14日(日)、「令和5年度ごみのポイ捨て禁止運動春季街頭啓発及びごみ拾い」(ボランティア)に本校生徒約200名が参加しました。朝10時45分に駅北広場に集合し、開会式の後、グループごとに駅前

対応しなければならぬが、教育の目的を見失ってはならない。今こそデジタルとアナログの最適な組み合わせが生徒の成長に欠かせないと肝に銘じ、生徒のために教育方法を確立する。

『建学の精神』を体現する。

私立高校は「建学の精神」に則った教育方針に基づき、創意工夫した教育を実践・発展させることにその存在意義がある。特に「建学の精神」に掲げてある「魂のこもっ

た実践的な人材を養成する」ために、令和4年度からの「Challenge(挑戦)」「Exchange(変革)」「Innovation(挑戦)」を継続し、明るく元気がかつ落ち着いた学校を目指す。そのためにも教職員自らが「為せば成る」・「不撓不屈」の気概で自己研鑽に励む。

『多様性を尊重する』

多様性の尊重が叫ばれている。多様性を尊重する世の中では相互理解が鍵となる。校訓の『建法』中正『寛容』は相互理解の根本となる精神であり、加えて、誠実さ・思いやり・粘り・努力の大切さを

重視し、地域社会に貢献してきた。また、普通科・工業科・商業科を併せ持つ総合高校として多様な生徒の進路を実現してきた。この実績を誇りとして多様性を尊重する新たな時代を切り開いていく人材を育成する。常識に囚われず、流れに身を任せず、校訓を道標に新たな伝統を築き上げる。

今年度は科として取り組む課題を提示した。学園経営の方針に従い、教職員同士が連携を深めてこの課題に取り組む。